Press Release　　2017 年 10 月吉日

都市のヴィジョン － Obayashi Foundation Research Program （大林財団の助成事業）

アーティストが考える「都市」とは？

会田誠「GROUND NO PLAN」展

会期：2018 年 2 月 10 日（土）－ 24（土）
会場：東京都港区北青山 3-5-12 青山クリスタルビル B1F、B2F

この度、公益財団法人大林財団は《 都市のヴィジョン － Obayashi Foundation Research Program 》と題した、新しい助成プログラムをスタートいたしました。これは、2 年に 1 度、豊かで自由な発想を持ち、さらに都市のあり方に強い興味を持つ国内外のアーティストを 5 人の推薦選考委員（※1）の推薦に基づいて決定し、建築系の都市計画とは異なる視点から都市におけるさまざまな問題を研究・考察し、住んでみたい都市、新しい、あるいは、理想の都市のあり方を提案・提言していただくというものです。
第 1 回目の助成対象者は、美少女、エロティック、グロテスク、戦争、暴力、政治など扱い、現代の日本社会を鮮烈に批評しつづけるアーティストの会田誠氏です。会田氏は《 都市のヴィジョン － Obayashi Foundation Research Program 》の助成を受け、2018 年 2 月 10 日（土）-24 日（土）東京・表参道の特設会場にて　会田誠　「GROUND NO PLAN」展を開催いたします。会田氏が考える未来の「都市」「国土」をドローイング、完成予想図、建築模型、絵画、インスタレーション、映像、テキストなど、多様なメディアを用いて表現する予定です。
是非、貴社媒体でのご紹介をよろしくお願いいたします。

(c) AIDA Makoto　Courtesy of Mizuma Art Gallery

展覧会概要

タイトル：会田誠　「GROUND NO PLAN」展
会期：2018 年 2 月 10 日（土）－ 24 日（土）
入場料：無料
時間：10：30 － 18：30（金曜日は 19：30 まで　）
会場：東京都港区北青山 3-5-12 青山クリスタルビル B1F、B2F
お問い合わせ先：03-3546-7581（大林財団事務局）/ Mail：obf-zaidan@obayashi.co.jp
公式 HP：http://www.obayashifoundation.org/urbanvision/

関連トークイベント

本展覧会開催にあわせて、会田誠のトークイベントを開催します。
会期：2018 年 2 月 11 日（日）
入場料：無料
時間：13：30 － 15：00（開場 13：00）
会場：アカデミーヒルズ（〒106-6149 東京都港区六本木 6 丁目 10 番 1 号 六本木ヒルズ森タワー49Ｆ）
申し込み方法：2017 年 12 月下旬頃から財団ホームページより事前申込を受付開始する予定です。

（作品について）

僕は過去に《新宿御苑大改造計画》(2001 年)や《「人」プロジェクト》（2002 年）をはじめ、公共空間に対して「ほぼ実現不可能なプラン」あるいは「実現させてはいけないプラン」を、敢えて思考実験的に提出する――という作品をいくつか作ったことがあります。今回の展示は、僕のそのようなタイプの仕事を、新しいアイデアも加えつつ集大成的に提出する機会となるでしょう。

それらは、具体的な「建造物」であることもあるし、漠然とした「環境に対する考え方」であったりもします。それぞれのプランで「現実性と非現実性」「シリアスとギャグ(ギャグの中にもホワイトなものからブラックなものまで)」の幅は大きく、統一感を持たせるつもりはありません。「フリーダムな態度で散らかり放題に出したアイデアたち」という印象になるでしょう。

展示の中心はやはり定石どおり、プランの完成予想図や立体模型となります。しかしなんらかの「自問自答的テキスト」の掲示も多くなるでしょう。建築や都市計画に対して完全な素人であるアーティストが、それらにコミットする面白さから危険性まで、出来る限り自覚的でありたいと思うからです(特に都市計画は原理的に“上から目線”になりがちなジャンルですから、細心の注意が必要です)。

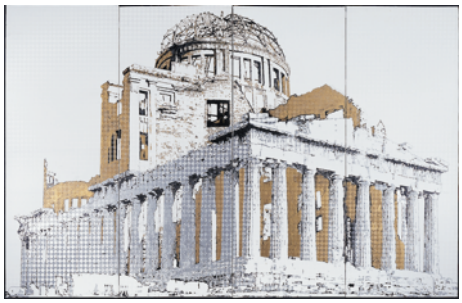
日本や東京の現状、そして未来に対しては、暗澹たる気持ちを抱かざるをえないところが正直あります。しかしそれをそのまま反映させて、暗い雰囲気の展示にはしたくないものです。「笑っちゃうくらい飛躍する想像力の翼」が欲しいものですが....まあ....できる限り頑張ってみます!

会田誠

作家略歴

会田誠（あいだ・まこと）　1965 年新潟県生まれ。1991 年東京藝術大学大学院美術研究科修了。
美少女、戦争画、サラリーマンなど、社会や歴史、現代と近代以前、西洋と東洋の境界を自由に往来し、奇想天外な対比や痛烈な批評性を提示する作風で、幅広い世代から圧倒的な支持を得ている。絵画、写真、映像、立体、パフォーマンス、インスタレーション、小説、漫画など表現領域は多岐にわたり、国内外で活動。近年の主な個展に「天才でごめんなさい」（森美術館、2012-2013 年）、「ま、Still Alive ってこーゆーこと」（新潟県立近代美術館、2015 年）、「はかないことを夢もうではないか、そうして、事物のうつくしい愚かしさについて思いめぐらそうではないか。」（ミヅマアートギャラリー、2016 年）など。

広報用画像　過去作品画像



左上）新宿御苑大改造計画（部分）／2001
右上）題知らず（戦争画RETURNS）／1996　撮影：宮島径
右下）（右）会田家《檄》／2015
（左）国際会議で演説をする日本の総理大臣と名乗る男のビデオ／2014
展示風景：「おとなもこどもも考える ここはだれの場所？」東京都現代美術館／2015
撮影：宮島径
全ての作品：
(c) AIDA Makoto　Courtesy of Mizuma Art Gallery

《 都市のヴィジョン － Obayashi Foundation Research Program 》助成事業 について

この財団は、1998 年 9 月に、「財団法人　大林都市研究振興財団」として設立されました。その名前が示すとおり、都市に暮らす人々に豊かな生活をもたらすような都市づくりを実現するために研究活動に従事されている方々への支援を通じてわが国の都市研究の発展を後押ししようと微力ながら努力してきました。2010 年 9 月に内閣府から公益財団法人として認定していただき、2011 年 9 月に現在の「公益財団法人　大林財団」の名称に変更しましたが、同じ基本理念を貫いて来ました。

日本は、戦後復興を経て高度経済成長を達成し、物質面ではかなり豊かになり、都市環境も効率的で利便性の高いものとなりました。しかし、豊かになったと言われる日本の都市も、そこで日常生活を営む人々の心も本当に豊かになったかと言えば、答えに窮するところです。戦後しばらく日本は戦争で焼きつくされた国土を復興させるのに必死でしたし、他に類を見ないほど自然災害の多い国であることを考えれば、まずは国民の生命を守る頑強なインフラの構築が長い間国の使命であったことは頷けます。

また一方で、世界を見ると、貧困にあえぐ地域が多数存在し、その人たちにとってはその地域のどのような施設も生きてゆくための手段でしかありません。さらに、これは世界中で言えることですが、都市への過剰な人口集中、自動車の普及や産業の集積などによる大気汚染、自然環境の喪失、温暖化ガスによる異常気象の発生などの諸問題が生じました。近年日本では、少子高齢化に伴い人口が減少する中で空き家の放置や孤独死といった社会問題も起きています。

そこで、人々に豊かな生活をもたらすような都市づくりというものを再考し、人との交わりという部分で都市を研究することに何らかの貢献ができないか。都市があり、人がいて、そこでの様々な関わり、例えば芸術、経済、環境、歴史など都市と人間に関係する幅広い分野での研究を支援しようと考えたわけです。

今回、当財団は、都市工学や都市の専門家ではなく、豊かで自由な発想を持ち、さらに都市のあり方に強い興味を持つ国内外のアーティストにお願いし、都市における様々な問題を考察し、住んでみたい都市や新しい、あるいは、理想の都市のあり方を研究してもらうこととしました。

考えてみれば、都市というテーマを研究したり考察したりするアーティストを支援している組織というものはこれまでなかったと思います。それに応えるのが、この《 都市のヴィジョン － Obayashi Foundation Research Program 》という助成事業です。

公益財団法人　大　林　財　団
理事長　　大　林　剛　郎

※1）選考委員

委員長	住友文彦	アーツ前橋 館長／東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科 准教授
副委員長	飯田志保子	インディペンデント・キュレーター ／東京藝術大学 美術学部先端芸術表現科・大学院美術研究科 グローバルアートプラクティス専攻 准教授
委員	野村しのぶ	東京オペラシティアートギャラリー　キュレーター
	保坂健二朗	東京国立近代美術館 主任研究員
	藪前知子	東京都現代美術館　学芸員

委員長コメント

都市へのヴィジョンをどのようにアーティストが考えるのか。未来志向的な前のめり感があるようで、じつはかなりラディカルな特徴がこのサポートにはあると考えています。かつてのユートピア的な創造性が好まれる時代ではもはやなく、都市をくまなく経済や管理の論理が覆う時代にあって、あえて個人の感性をもとに表現するアーティストが思い描く都市のヴィジョンを知りたいと私たちが思うとすれば、それは国家や自治体や企業の描くものとは全く異なるものになるだろうと思います。地球環境や他者との共存を切実に求める私たちがそこに希望や望みを託すべきなのでは無いでしょうか。そうした考えをもとに選考委員が多くのアーティストの名前を挙げ、それに相応しい一人のアーティストを選考しました。議論の幅は過去の作品から世代の違いまで数多くありましたが、そのなかでこのラディカルさにおいて会田誠を選ぶ点については全員一致していたのではないかと思います。会田氏がこの新しいアーティストの創造性をサポートする一人目に選ばれたことは、今後もこの事業が持つメッセージを力強く伝えてくれることと信じています。

住友文彦

取材・広報用画像のお問い合わせ先
TAIRA MASAKO PRESS OFFICE　担当：平昌子　masako@tmpress.jp　M 090-1149-1111